別紙

課題研究プロジェクトA
「未来志向型コンピテンシーと特別活動
―新しい日本型教育モデルTOKKATSUの海外発信を目指して―」

課題研究プロジェクトの概要：

経済協力開発機構（OECD）の組織するDeSeCoが提言した「キー・コンピテンシー」や、アメリカを中心とした国際団体「ATC21s」の提唱する「21 世紀型スキル」など、新しい社会を生き抜くための必要な能力とは何かを定義する試みが進んでいる。また、国際バカロレア機構が提供する国際バカロレア（IB）や国際規模の私立学校連盟が推進するラウンドスクエアなど、国際的な教育プログラムの開発と普及も進められている。

こうした未来志向型コンピテンシーの定義や未来志向型教育プログラムの開発を見ると、これまで日本の特別活動が大切にしてきた価値や活動と親和性が高いことに気付く。また、恒吉僚子会員（東京大学）や杉田洋会員（國學院大學）などによる海外発信により、日本の特別活動の価値は諸外国からも注目されつつある。そこで、このプロジェクトでは特別活動のどの活動のどの機能が未来志向型コンピテンシーのどの部分と対応しているのか、そして未来志向型教育プログラムにおいて特別活動がどう貢献しうるのかを探究する。

具体的には、（１）社会で求められる資質・能力を特別活動が直接的に育むという側面、（２）教科等で身につけた知識・技能を特別活動の中で活用したり、理論的に学んだ道徳を特別活動の中で実践したりするという側面、（３）アクティブ・ラーニング等の学習・教育活動を可能とする望ましい集団活動などの基盤を特別活動が支えているという側面、という３つの側面から、未来志向型コンピテンシーの定義や未来志向型教育プログラムの中に特別活動の個々の活動を理論的に位置づける研究を行う。

また、現在、諸外国が日本の特別活動のどこに注目しているかを分析し、それを踏まえつつ、未来指向型教育プログラムの開発に向けて日本が世界発信すべき特別活動の目標、内容、方法を特定していく。

課題研究プロジェクトの成果目標：

研究の途中経過を平成29年の日本特別活動学会東海大会において生かす（発表する）。

将来的には本学会が「TOKKATSU の発信基地」となり諸外国からの問い合わせに対応できるようにすることも視野に入れ、そのための研究情報や実践事例の蓄積を行いたい。

課題研究プロジェクトのおおよそのタイムスケジュール：

①未来志向型コンピテンシーの定義、未来志向型教育プログラムの内容について整理し、特別活動と親和性の高い部分はどこかを明らかにする。

②このリストに具体的な活動をあてはめていく。国際的ニーズの高いと思われるいくつかの活動について、受け取り手に配慮した、わかりやすいモデルを構築する。

③これらの作業が、国内における教育課程の再構造化や、各学校でのカリキュラムマネジメントにいかに生かされるのかについても考察する。

研究会の頻度：

年6回程度　原則として第26回大会の実行委員会と同一日に行う。

研究会の開催地として頻度が高いと思われる地方名：

年6回のうち4回程度は名古屋で行う。その他2回程度は別地域で開催することもある。